

1 「海と生きる探究活動」の主題について

「自ら課題を見だし、身に付けた知識を活用して解決しようとする児童の育成」～海と生きる探究活動における探究的な学びの充実を通して～の研究主題・副題を設定し、「海と生きる探究活動」の校内研修に取り組んできた。児童にとっては「海と生きる探究活動」を進めていく上で、前年度までの学びをいかに活用して課題を解決するかが重要となるが、前年度の時点で次年度の活動をイメージしている児童も多く、主題に迫ることができている。今年度は児童自らが地域に働きかけたり、他学年児童に呼びかける活動に取り組んだりするなど発展的な活動も見られた。解決すべき課題まで自ら設定するという主体的な態度の育成も目指すという探究学習の重要性に焦点を当てた主題であり、次年度も主題・副題とも今年度のものをベースにしてよりよい主題を設定し、さらに研修を深め、児童の活動を充実させたい。

2 「海と生きる探究活動」の視点の内容や視点に沿った実践は推進されたか。

教員へのアンケートでは、「研究の3つの視点の内容は妥当だったか」という問いには、100%の教員が妥当だったと答えていた。今年度の研究の視点をベースに次年度も進めていきたい。

どの学年も「唐桑の宝を知ろう」や「唐桑の海の豊かさを探ろう」「世界につながる海の今を探ろう」「自分たちの未来を考えよう」等学年の単元やテーマをよく吟味した探究活動になっていた。また、自分で地域にインタビューに出向くなど、教師主導から児童主体の探究活動になってきた。テーマや課題を自分事として捉え、自分でインタビューや調査などに出かけ探究したことは、「リアスサミット in 唐桑」での発表・発信にも十分生かされていた。課題を設定させるときに、地域の人や探究コーディネーター等に話を聞く活動を行ったり、フィールドワークをしたりして課題設定に結び付く体験等を導入段階で行ったことが充実した探究活動につながったものとする。これらのことは「a 海と出会い、なかよくなる b 海の恵みを知る c 海の仕組みを知る d 海をいかす e 海と生きる文化を重ね、伝える f 海と生きるまちをつくる」という、海洋リテラシーを意識した授業づくりができていたと捉える。

3 「海と生きる探究活動」の組織と活動内容について

校内研究として実践してきたが、さらに、担任・担任外に関わらずそれぞれの立場から協働での授業作りに参加する体制をつくっていく必要がある。また、発表に向けての準備には担任1人では指導が行き届かないことがあるため、特に担任外のサポート体制を考えていく必要がある。

4 「海と生きる探究活動」実践に対する自己評価について

海と生きる探究活動を3年間行ってきた6年生は「まちづくり」や「唐桑の地域」に重きをおいた。まちづくりや、唐桑町の漁業など、地域の良さについては深めることができている。しかし、「唐桑と海の環境を見つめ直し豊かで恵まれていることや問題となっていることなどについて調べることを通して、自分たちと自然環境との関連性に気付

き、自分の住む唐桑のよりよい未来はもちろん、世界に目を向けて自分のできることや、協働でやるべきことを提案し、より良いまちづくりについて発信しようとする心情を育む。」という学年目標に照らすと「海と生きる」「世界につながる」の観点で改善や発展が必要だと感じた。また、導入段階で最初にお話をいただく際に、まちづくり以外にも、漁業関係や観光、環境など、いくつかの分野の方々の話を聞けるとテーマに広がりや多様性が出たのではないかと考える。

上記のことを受けて、次年度も校内研究で、「海と生きる探究活動」を取り上げて、以下の点を工夫しながら児童の活動を支援していきたいと考える。

- 1 適宜、研究推進委員会を実施し、取組の方向性を確認する。
- 2 各学年部に課題探究を個々に指導できる、TT 指導の導入や支援体制を整える。
- 3 教師自身の探究学習の進め方の研修を行っていく。
- 4 「リアスサミット in 唐桑」の内容の見直しを行う。